

# そうじの力だより

VOL.229



## 支援レポート

社員の底力を結集させる力「そうじの力」  
〜環境整備見学会の定期的な開催〜

東京都中野区の株小河源建設。木造注文住宅部門とゼネコン部門を持つ、社員三五百名ほどの会社です。

私は一四年前から、同社の環境整備活動のお手伝いをしています。

私がお手伝いに入って、まずやったことは、不要なものを徹底して捨ててもらったことでした。当初は、社内のおちこちに、たくさん不要物が積まれていました。事務所の書類しかり、倉庫の資材や建材しかりです。

「もうたいたい」「いつか使うかも」という気持ちで断ち切ってもらい、「一年以上使っていないものは捨てる」ことを徹底してもらいました。

その結果、捨てたものは、四トン車で四〜五台ほどになったでしょうか。

今では、私がお手伝いする会社の中でも、ピカ一の環境整備の行き届いた会社になっています。

先日、同社で、外部の方を招いて、環境整備の見学会を開催しました。同社での開催は、もう一〇回くらいになるでしょうか。

私は、お手伝いしている企業がある程度のレベルになると、外部向け見学会を開催しようと提案します。

理由は二つあって、まず、外部の人に見られるというのは、本人たちにとって、とても良い刺激になる、ということ。この活動は、大切な取り組みなのですが、どうしても地味なので、時にマンネリになったり意義を感じられなく

なったりします。ところが、外部の人が見てもうとんでもない状態になっている。こういうところ、互いにコミュニケーションも取りや

「きれいだね」「整ってますね」と誉められれば、嬉しくなって、次への意欲が湧いてきます。もう一つ、見る側にとっても、有益な機会になる、ということ。環境整備の醍醐味は、いくら言葉で言っても伝わりません。百聞は一見に如かずで、間近で見ると、その意義を納得することが出来ます。

事務所の見学会を案内したTさんは、「以前はデスクとデスクの間にパーテーションがあったが、それを取り払って何も無い状態にしていく。互いにコミュニケーションも取りや



ささぎるものがない事務所のデスク



資材倉庫の見学のようす

「正直なところ、整えてもすぐに乱れてしまう。だから、細かいことまでルール化することが大事だと気づいた」と説明してくれました。また、車で二〇分ほど移動した先にある建築現場も見てもらったのですが、担当のIさんは、「正直に言うと、常にこのようにきれいな状態ではありませぬ。作業中は汚れます。でも、作業が終わって帰る際には、必ずこの状態にして帰ります。」と語ってくれました。

その後で聞いた話だと、この近辺に他に三軒の現場があるとのことですが、それら

地下の資材倉庫の案内をしたYさんは、「正直なところ、整えてもすぐに乱れてしまう。だから、細かいことまでルール化することが大事だと気づいた」と説明してくれました。また、車で二〇分ほど移動した先にある建築現場も見てもらったのですが、担当のIさんは、「正直に言うと、常にこのようにきれいな状態ではありませぬ。作業中は汚れます。でも、作業が終わって帰る際には、必ずこの状態にして帰ります。」と語ってくれました。



現場での転落防止のネット



建築現場の見学のようす

同社の強みは、「継続」だと思います。どんなにレベルが上がろうとも、取り組みを続け、こうした見学会も定期的で開催していることです。（小早）

最後の質疑応答の場面で、小河源敬彦社長が、「一〇年前、私が事故で大怪我をして、半身不随の車イスになった。治療とリハビリで一年半、会社を留守にした。取引先からは、小河源はもう潰れるなどと言われた。ところがなんとその時期に、わが社は過去最高売上を上げることでできた。それも、環境整備と経営計画書によって、社員の地力がついてきたからに他ならない」とおっしゃっていたのが印象的でした。

最後の質疑応答の場面で、小河源敬彦社長が、「一〇年前、私が事故で大怪我をして、半身不随の車イスになった。治療とリハビリで一年半、会社を留守にした。取引先からは、小河源はもう潰れるなどと言われた。ところがなんとその時期に、わが社は過去最高売上を上げることでできた。それも、環境整備と経営計画書によって、社員の地力がついてきたからに他ならない」とおっしゃっていたのが印象的でした。



小河源敬彦社長による挨拶

企業・団体の研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはホームページをご覧ください。

## 今月の読書から

『ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる』 鍵山秀三郎 著  
～平凡なことを徹底すると、非凡が生まれる～



イエローハットの創業者であり、日本を美しくする会の相談役である鍵山秀三郎氏。弊社の相談役にもなっている鍵山氏の著書はたくさんありますが、私は本書が一番好きです。

あらためて読み返してみて、心に響く部分をご紹介します。

くともすると人間は、平凡なことはバカにしたり、軽くあしらいがちです。難しく特別なことをしなければ、成果が上がらないように思い込んでいる人が多くいます。そんなことは決してありません。世の中のことは、平凡の積み重ねが非凡を招くようになっています。)

「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる。」私の信念を込めた言葉です。何事始めるにも、大切なことは、一步を踏み出す勇氣。(中略)具体的には足元の

ゴミを拾う実践から始めることです。ゴミを目にしたら、腰をかがめてサッと拾う。この実践を続けているだけで、気づきに対する直観力が研ぎ澄まされてきます。(中略)第一、足元のゴミひとつ拾えぬほどの人間に何ができましょうか。)

く人の心は、そう簡単に磨けるものではありません、ましてや、心を取り出して磨くなどということではできません。心を磨くには、とりあえず、目の前に見えるものを磨き、きれいにする。とくに、人のいやがるトイレ掃除を永年続けていると、知らず知らずのうちに自分の心も浄化され磨かれるようになります。人は、いつも見ているものに心も似てくるからです。)

く車で会社を出るときは、必ず洗車してから出かけることを徹底しています。その際、使用者に関係なく複数人で洗車します。雪の深い札幌では、雪に埋まっている車を掘り出して洗います。きれいにした車に乗って出ても、またすぐ汚れるわけですが、それでも洗って出かける。それくらい徹底しています。車の掃除を徹底した理由は、二つあります。ひとつ

は、事故を減らしたいという切実な思い。あとひとつは、お客様に尊重されたいという思いからです。)

くその人が「本物人間」であるかどうかを見分ける基準として、私は次の二つのことを参考にして判断するようにしています。ひとつは、その人のいつていることと行っていることがどれだけ一致しているかです。あとひとつは、自分の利益に直接結びつかないことに対して、どれだけ無心に取り組んでいるかどうかです。)

く「相対差」は周囲との比較。「絶対差」は自分自身との闘いです。「相対差」の世界で生きていますと、いつまでも心の安らぎは得られません。いつ追い越されるかもしれない、いつ失うかもしれないという不安と恐怖が付きまといまいます。(中略)一方、「絶対差」の世界は、過程を大事にする生き方です。勝つとか負けるという世界ではありません。争わない世界のことです。(中略)人間なら人格、会社なら社風。「絶対差」の世界で生きていますと、自信と満足が得られます。)

(小早)

### 編集後記

#### 久しぶりの緊張

先日、フォークリフトの講習を受けて免許を取りました。

理由は・・・、なんとなく、取りたかったのです(笑)。

実技講習の最後に、試験があるのですが、いつになく緊張してしまい、いくつか単純なミスをしてしまいました。

ここ数年は、こうした「試験」を受ける機会もなく、「緊張」したのは久しぶりです。

でも、こうした体験も、人生にとって良い刺激になり、日々を楽しく過ごせる材料になります。(小早)



### 飛鳥のつばやき

#### ラジオ体操

小1長男、6月に夏休みのラジオ体操カードをもらってきました。

コロナ以降は開催していないと聞き、「近所の子たちに声をかけて実施するか」と軽いノリで企画することに。

ところが、「公園の使用許可の有無」「公園の所在する町内会への連絡」「チラシを貼るための市役所とのやりとり」「ポスティング」など、思った以上にやること沢山！

たかが朝の10分ですが、地域活動の事前準備の大切さを痛感した1ヶ月でした。(大槻)



## 株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、  
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)